ぱちんこ
言葉物語 ㉚

「7」

今回の言葉物語は、パチンコ・パチスロファンなら最高の縁起物「7」という数字に焦点を当ててみたいと思います。

初期では単なる図柄

今から20年前では、パチンコについては格差は無く、単なる図柄の一つとして他の図柄と格差なく扱われていました。一方パチスロでは欧米カジノのデザインの潮流が残り、7図柄はビッグボーナスとして定着していました。

1号機から3号機あたりまではその傾向は残り、7図柄のデザインセンスや好みでユーザーが違うということもありました。

その中でいち早く7図柄以外の大当り図柄を搭載したオリンピアでは、1986年に登場した「（ニュー）スターダスト」シリーズで「SUPER」図柄をビッグボーナス図柄に、7図柄を次位のレギュラーボーナスとして搭載し注目を浴び、スタンダードな構成が目立つこの時代に異彩を放つ当機は多くのファンを獲得するに至りました。

©olympia
ニュースターダストⅡ。
沖縄から本土へ進出した際に登場した名シリーズ。
当機は主に無制限営業用として活用された。

中国は「8」を最高に

7＝最高の縁起数字と書きましたが、世界では若干違うケースがありますのでここで簡潔ながら紹介したいと思います。

特に中国の8縁起は有名です。最上の数字と呼ばれるこの数字はマカオのスロットコーナーでジャックポット図柄に8が採用されているものもあるほどです。それは北京五輪の開会式が2008年8月8日午後8時8分ということからもおわかりいただけると思います。日本でも8は末広がりとして縁起がいいと言われていますが、当業界では限られた機種でしか採用されていません。

©TAIYO
タイヨーの「エイトマン」。
図柄に8を採用しているが、扱いは何とリプレイ。
中国系の方々が首をかしげるのが目に浮かぶ。

パチスロでは「3」軽視

3の数字は現在でもパチンコでは7と同様の扱いをするケースが多々あります。縁起数字としてアジア系でも概ね使われる事からもこの結果はうなずけるでしょう。しかしパチスロでは3の数字を用いるケースは極少数で、大東音響「マジカルベンハー」や山佐「おいちょカバ」などしかありません。

©yamasa
山佐「おいちょカバ」。
ビッグボーナス図柄は3、レギュラーボーナス図柄は5という異端児だがファンは幅広くいた。

9は主にベトナム・タイなどで用いられます。ちなみにベトナムでは7は「失う」という言葉と同発音のため縁起が悪いとされる数少ない国でもあります。その他、冬季五輪が開催されたロシアでは数字揃いは縁起が良いとされ、年月日が揃う日には多くの結婚式が行われることでも有名です。

7が揃ってこれだけ？

今のパチンコ・パチスロの構成上7は偉い図柄であることの整合性はおおむねあると言えます。また、その他の数字と現在の役構成の活用の経緯も理解できるでしょう。

一方「7が揃ってこれしか出ないの？」と思う現在の遊技フローに対するライトユーザーへの説明責任は意外と重要であるはずで、現在の遊技機で大きな成果を得るまでのハードルは高い事をユーザーにしっかりと認識してもらう必要があるでしょう。

余談ですが、ある英字雑誌の編集者と対談した時に「なぜ魚群が出るとチャンスなんだ？」と聞かれたことがあります。スタートはそれくらいの位置から始めなければならないということでしょう。「7」という数字の神々しさは、我々が思うよりももう少し高い位置にあるのかも知れません。

（大和田敏男）

いまだに位は高くて特別